

# 大 報 おおだて

3 月	
交通事故・件数	17件(47)
傷者	27人(66)
死者	0人(0)
火災・件数	0件(9)
救急・回数	74回(212)
( )内は今年1月からの累計	

編集と発行 大館市役所 4月16日号 (No.340)



▲馬が砂俵を乗せた木ノリを引きながら走り出すと、花見気分と相まって会場は興奮のつぼと化しました。(昭和30年ころの馬力大会風景)

## 憲法記念日 講演会のご案内



／講師略歴／昭和六年生まれ、二十八年秋田魁新報社入社、現在同社論説委員長。著書は「海外にはばたいた秋田の先覚」ほか。

講師 渡辺誠一郎氏  
 日時 5月3日 午後2時～3時半  
 演題 「日本人はこれだいいのか」  
 会場 文化会館中ホール

写真は昭和三十年頃の馬力大会のものです。当時は桂城公園で行われており、ちょうど花見どきと重なり、土手付近は黒山の人だかりでした。私が初めて参加したのが昭和二十七年で、十八歳の時でした。子供の頃から馬の調教師をめざしていた私は、足のケガにより断念、家業の農業を継ぎましたが、馬への思いが断ち切れず家族の反対を押し切って馬を買った。この年鞍馬の甲の部で優勝しました。レース当日は朝早くから会場に入り、鍋をかけ酒盛りをしながらレースに臨むのがつねで、それだけにお祭り気分も最高に盛り上ったものです。御成町五丁目の道路舗装に、馬を連れて働きに行った時の賃金が一日八百円。ふすま一俵(馬の飼料で二〜三分)が四百円の時代でこれも思い出のひとつです。馬力大会の会場は、やがて桂城公園から長木川原へ、そして昨年は長面袋へと移ってきましたが、レースの日には今でも多くのファンが会場いっぱいに見にきてくれます。



田村健一さん  
 (塞神・48歳)

## 満開の桜の下で馬力大会